水の魅力　育まれる産業

市内にはぬまづの水に魅力を感じ、古くから伝統を引き継いでいる老舗や新たに起業する店舗などが数多くあります。
豊富で良質なぬまづの水は皆さんの生活を支えるとともに、皆さんの心を惹きつけます。

新たな可能性を生む　良質で豊富な水

千本緑町の川縁に、ぬまづの水でクラフトビールを作る醸造所があります。

近年、にわかに盛り上がりを見せているクラフトビールは、職人のビール、手作りのビールとも例えられ、その土地の水や特産物にこだわりを持ち、比較的小規模な醸造所で作られています。地域の特性を活かした味わいのビールは、根強いファンを獲得しています。

ビールの醸造は、素材としてはもちろんのこと、設備のメンテナンスにも大量の水を使うため、良質で豊富な水は欠かせないそうです。

「ビールをつくるのが好きなんです。カッコイイしね。だから素材や製法にこだわりを持ってるんです」と話すのは、沼津クラフトを製造・販売する柿田川ブリューイング㈱代表を務める片岡哲也さん。ビール醸造会社のヘッドブルワー（製造責任者）を務め、自分が想うビールを作りたいと3年ほど前に独立した生粋のビール職人です。

「ビールをつくるとき、沼津の水の味をイメージしているんです。沼津の水に大きな可能性と沼津のポテンシャルの高さを感じています。ここでしか出せない味を大切に、地域の人に愛されるビールをつくりたいです」と片岡さんは話します。

『SLOW BEER SLOW LIFE』身近なお酒であるビールをもっと身近に。」をコンセプトとしている沼津クラフトでは、醸造所の傍らに、気軽に立ち寄れるカウンター形式の小さなバーを設けています。そこには、地域の皆さんにゆっくりビールと人生を楽しんで頂きたいという想いが込められています。

静岡県はクラフトビールを作る醸造所の数が全国でも多く、中でも東部地区に集まりを見せています。また、クラフトビールを作るため、県外からこの地域に移住し、起業する人やその仕事に携わっている人も多いそうです。

ぬまづの水は、新たな可能性を生み、まちに賑わいをもたらしています。

地域に親しまれ　受け継がれる味

「この場所に湧き出る水は、家宝なんです」と教えてくれたのは、昭和27年から続く豆腐店の二代目澁田克彦さん。原にある澁田豆腐店は、先代が豆腐を作るため、深さ約165mもの井戸を掘ったことが始まりで、以降「富士山の伏流水で作る豆腐」として多くの人に親しまれています。

豆腐は形だけでなく、素材もシンプルで、大豆、にがり、そして水で作られており、水の美味しさで味が決まります。製造過程においても、流水に豆腐を浸し、熱を冷ましながら、豆腐から出る臭みを取り除く大切な役割もあるそうです。

澁田さんは「その地域の水で作られた豆腐は地域の味になるんです。今も昔ながらの製法なのでたくさんは作れませんが、地域の味として残していきたいです」と話します。

美味しいから好まれる　自然の恵み

水の美味しい沼津に住む私たちにとって、馴染み深い飲み物「お茶」。口の中に広がるほどよい苦みと渋みは、疲れを癒し、心を落ち着かせてくれます。
その美味しさの秘密はどこにあるのか。
お茶と水の関係について、日本茶インストラクター野﨑さとみさんにお話を伺いました。

日本茶インストラクター
野﨑園　野﨑さとみさん

日常に溶け込む　自然の恵み

新茶の季節になると、愛鷹山は、辺り一面が若草色となり、若葉の爽やかな香りで包まれます。愛鷹山の麓、愛鷹、浮島地区は、お茶どころとして知られており、沼津茶の栽培が盛んで、生産量が全国1位の静岡県内においても主要なお茶の産地となっています。

お茶どころ沼津に住む皆さんは、お茶と水の相性について考えたことはありますか？

「お茶はいくら高級な茶葉を使用しても、水の良し悪しで美味しさが全く違うんです」と話すのは、日本茶インストラクター野﨑さとみさん。浮島で製茶販売業を営みながら、お茶淹れ体験教室を通して、子どもたちにお茶本来の美味しさや魅力を伝えています。

お茶を美味しく感じるためには、カルキなどの臭いや雑味がない水が必要です。また、茶葉の産地の水を使って淹れたお茶は、美味しくなるという説もあります。

野﨑さんは「地下水に近いぬまづの水は、お茶を淹れると水色に透明感を持ち、お茶の成分がとけ込みやすく、旨みや程よい渋みを感じることができるんです。お茶は旨みで美味しいと感じ、渋みでまた飲みたくなり、香りで心を落ち着かせてくれます。休憩の時に『一服』と言いますが、お茶はまさにぴったりだと思います」と教えてくれました。

休憩や食事の後など、日常生活の中で、ごく自然と口にするお茶。そこにも、ぬまづの水のすばらしさが隠れています。

当たり前のことって　ありがたい

静岡県は、各地域に美しい水の恵みがあふれており、中でも東部地域は、富士山からの良質で豊富な地下水に恵まれていることから、食品生産業などをはじめ、多彩な産業が集積しています。本市においても、名水百選にも選ばれている柿田川湧水群などの水資源を活かした企業誘致を進めています。

また、市街地を流れる狩野川や市内の各地域の湧水は、水辺の空間を演出し、住民や訪れた人に憩いと安らぎを与えてくれます。

自然がもたらす豊富で美しいぬまづの水。私たちの生活や産業には欠かせないものとなっています。日常生活に溶け込み、当たり前のように私たちの暮らしを潤してくれる自然の恵みに感謝し、未来に引き継いでいかなければならない、ぬまづの宝です。